

男女共同参画学協会連絡会 2023 年女性比率調査

本報告では、男女共同参画学協会連絡会に加盟している学協会（正式加盟学協会およびオブザーバー学協会、計 121 学協会）を対象に、2023 年 9–10 月に行われた女性比率調査の主要な結果を示す。調査期間中に計 90 学協会からの回答があった。なお、情報がある学協会の数は項目ごとに異なっている。

うち、個人会員の性別の記録があった 87 学協会の個人会員（全会員から法人会員や団体会員を除いたもの）の女性比率は、平均 18.3%（中央値：19.2%、範囲：3.1–67.5%）であった。

以下に占めす各図では、図 2 を除いて、各学協会の個人会員における女性比率を比較のためのベンチマーク（横軸）とした。すなわち、縦軸に示すものが個人会員全体から性別とは独立に選ばれていれば、おおむね $Y=X$ の直線近くに点が位置することが予測される。また、各学協会は、学問分野ごとに 5 つのカテゴリに分け、異なる色で示した。実際には、それぞれの学協会内には多様な分野の専門性を持つ研究者が属しているが、本調査では各学協会の名称とウェブサイトの情報から、およその目安として学協会ごとに分野を特定した。

1. 個人会員・一般会員の女性比率と学生会員の女性比率の関係

各学協会の個人会員の女性比率は、分野ごとに異なる傾向がみられ、医学・歯学・薬学系（医・歯・薬学、黒色）で高い学協会が多く、生物学・化学・農学系（生・化・農学、黄色）と社会科学系（社会、オレンジ色）が中間的、数学・物理学・地学系（数・物・地学、緑色）と情報学・工学系（情報・工学、水色）では平均的に低かった。

学生会員の女性比率は、個人会員全体の女性比率と正に相関し、分野によらず概ね 10%から 30%ほど高くなっている（図 1）。この傾向は横軸を一般会員の女性比率に変えても同様であった（図 2）。

図 1. 個人会員全体の女性比率と学生会員の女性比率の関係 (N = 81)

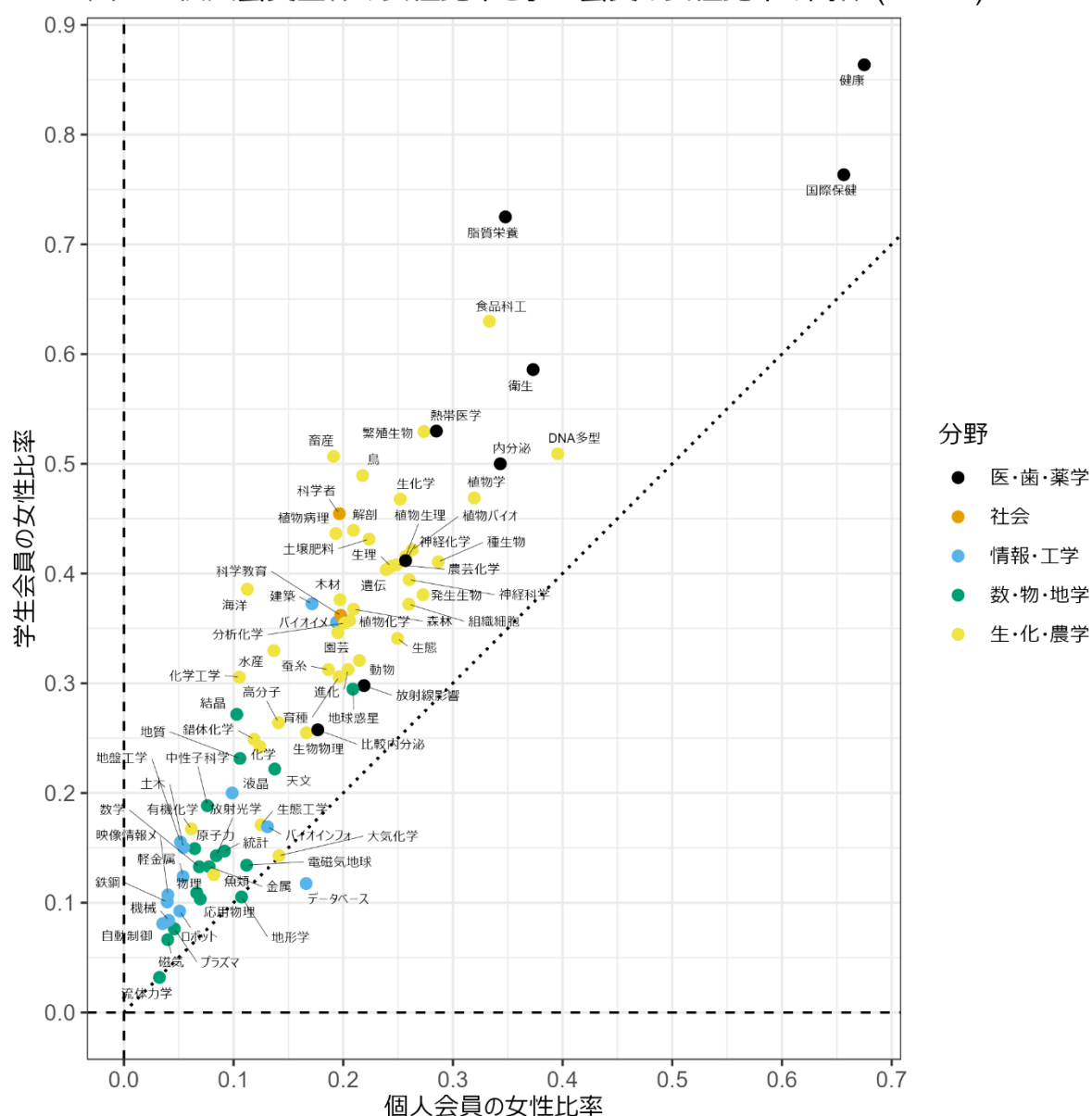
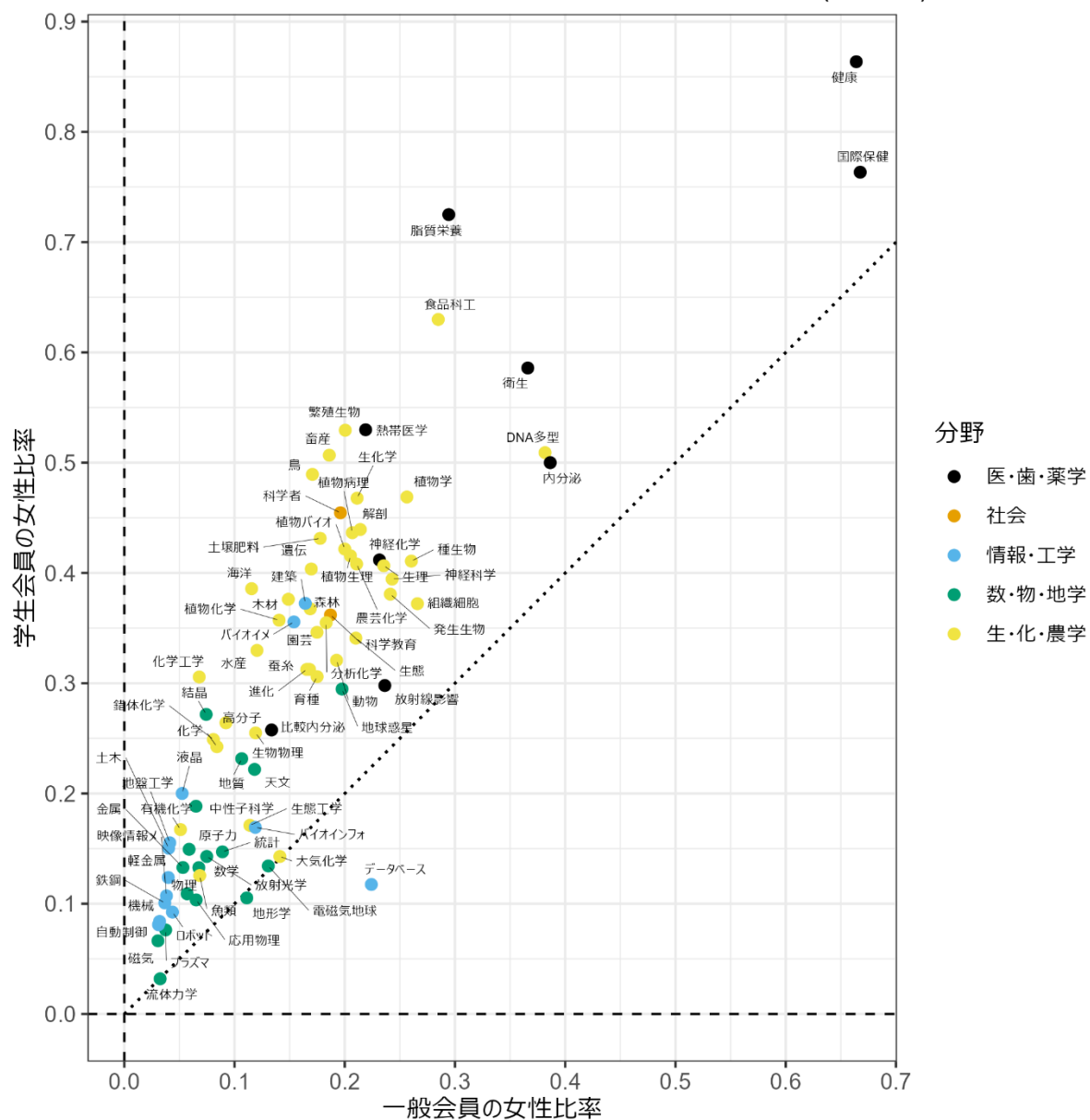


図2. 一般会員の女性比率と学生会員の女性比率の関係 (N = 81)



2. 個人会員の女性比率と役員・委員の女性比率の関係

個人会員の女性比率と会員（会長、副会長、理事、監事）の女性比率を比較すると、全体としては $Y=X$ の斜線の周りに散らばり、相関関係は弱かった（図3）。一方で、分野ごとに異なる傾向がみられ、医・歯・薬学の学協会は全体として斜線の下方、すなわち役員の女性比率が個人会員の比率に比べて低く、逆に情報・工学系と数・物・地学の学協会は斜線の上方、つまり役員の女性比率が高い傾向が認められた。同様の傾向は個人会員の女性比率と評議員・代議員の女性比率でも認められたが、こちらの方は正の相関関係はより明確であり、全体としてより多くの学協会が斜線の下方に位置していた（図4）。

次に、個人会員の女性比率と会誌・和文論文誌・英文論文誌編集委員の女性比率を図5－7に示す。いずれも全体として正の相関が認められるが、 $Y=X$ の斜線から上方あるいは下方に大きくずれている学協会が一部見られた。また、英文論文誌編集委員では斜線から大きく下方にずれた位置にある学協会が、とくに医・歯・薬学と生・化・農学分野で多くなっていた（図6）。

第3に、個人会員の女性比率と男女共同参画委員の女性比率の関係を図8に示す。個人会員の比率とは相関関係がなく、全体として女性に大きく偏っており5～8割の委員が女性で占められていた。

最後に、その他の委員全体の女性比率をみると、全体として個人会員の女性比率に近い値になっている学協会が多かった（図9）。

図3. 個人会員全体の女性比率と役員の女性比率の関係 (N = 84)

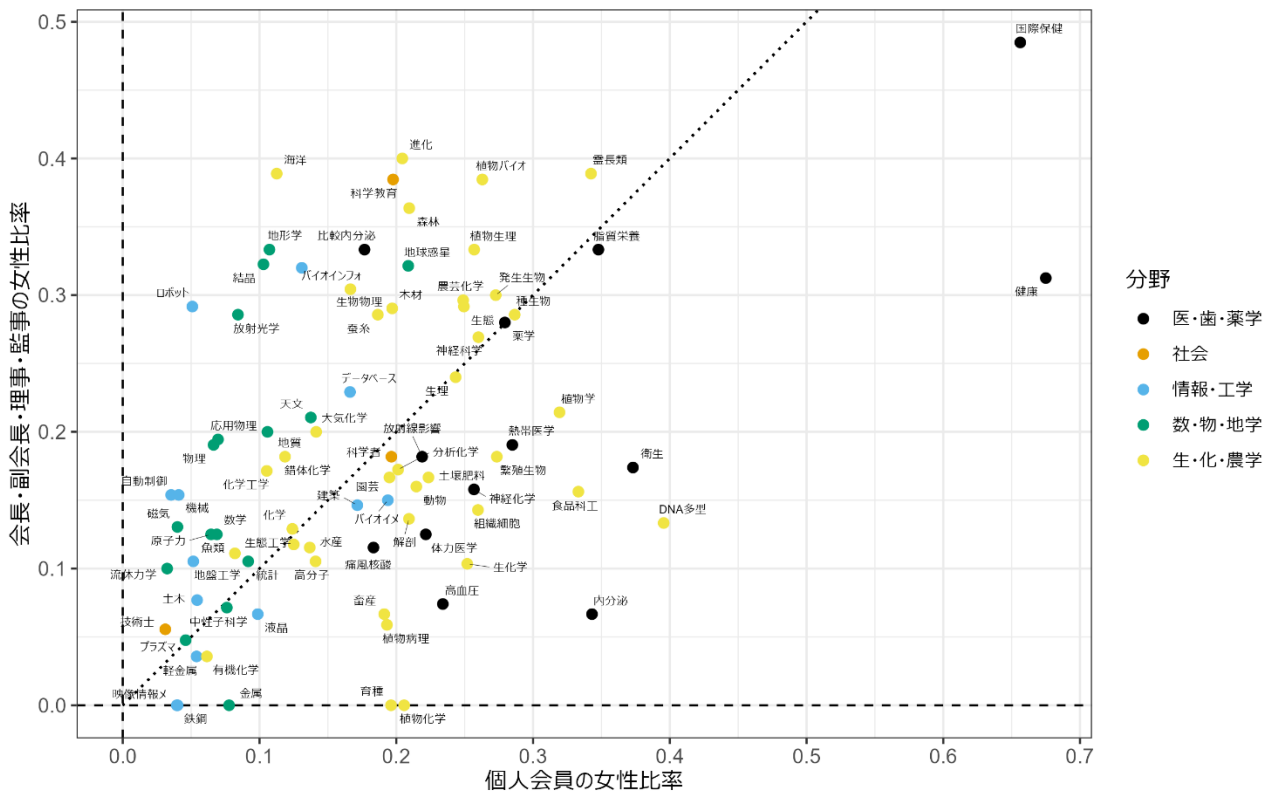


図4. 個人会員全体の女性比率と代議員・評議員の女性比率の関係 (N = 75)

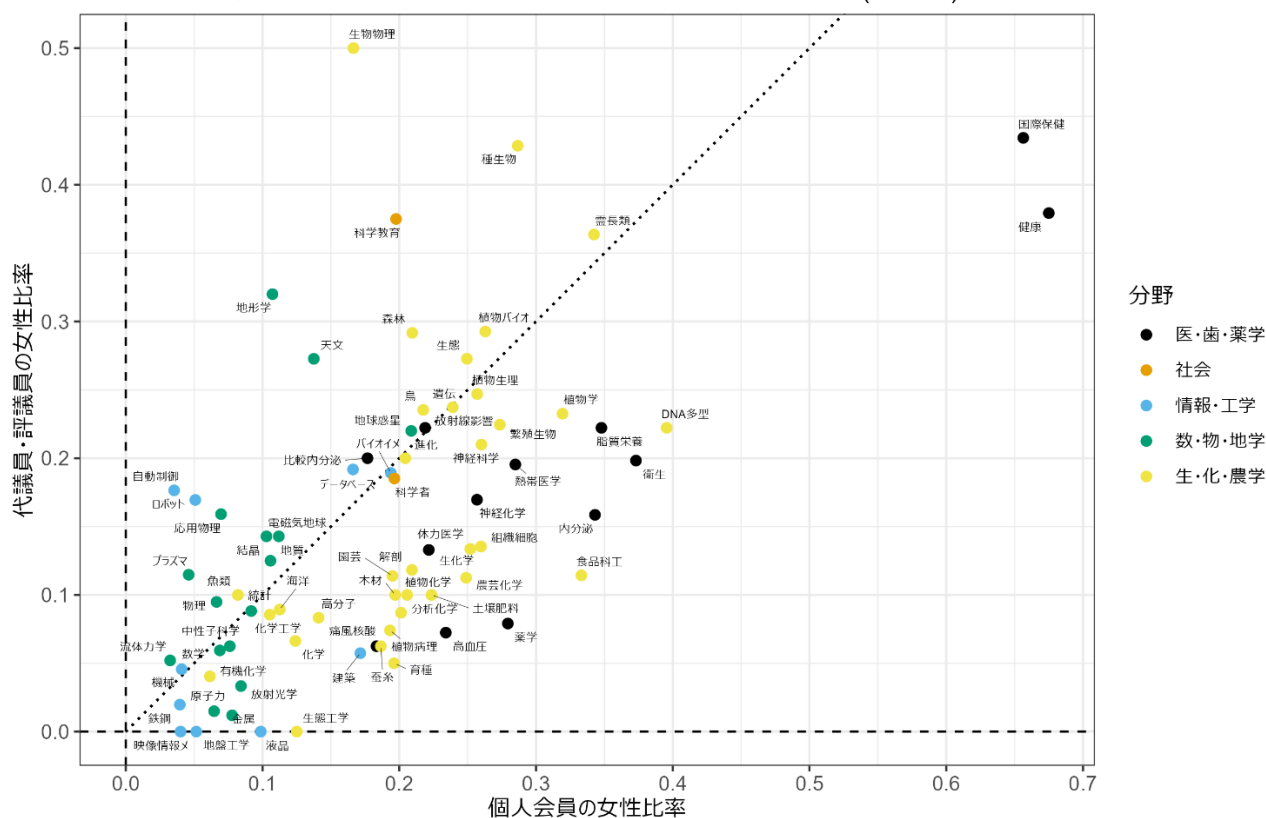


図5. 個人会員全体の女性比率と会誌編集委員の女性比率の関係 (N = 64)

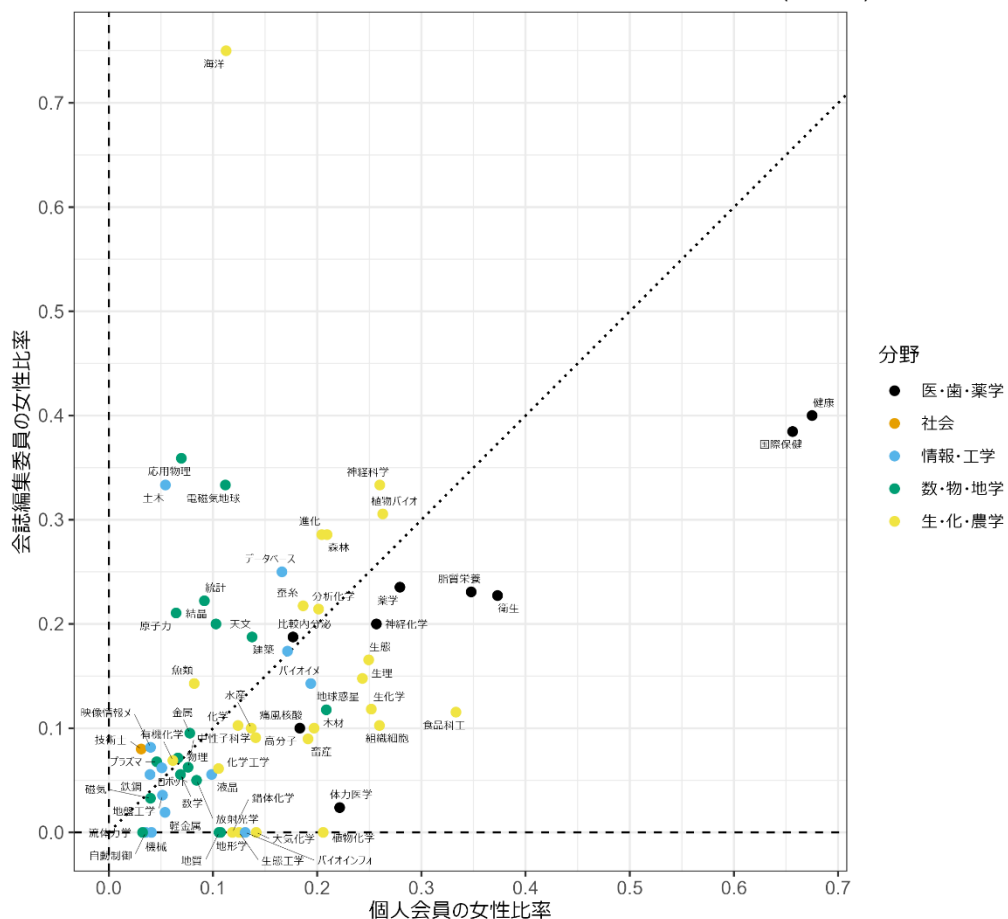


図6. 個人会員全体の女性比率と英文論文誌編集委員の女性比率の関係 (N = 65)

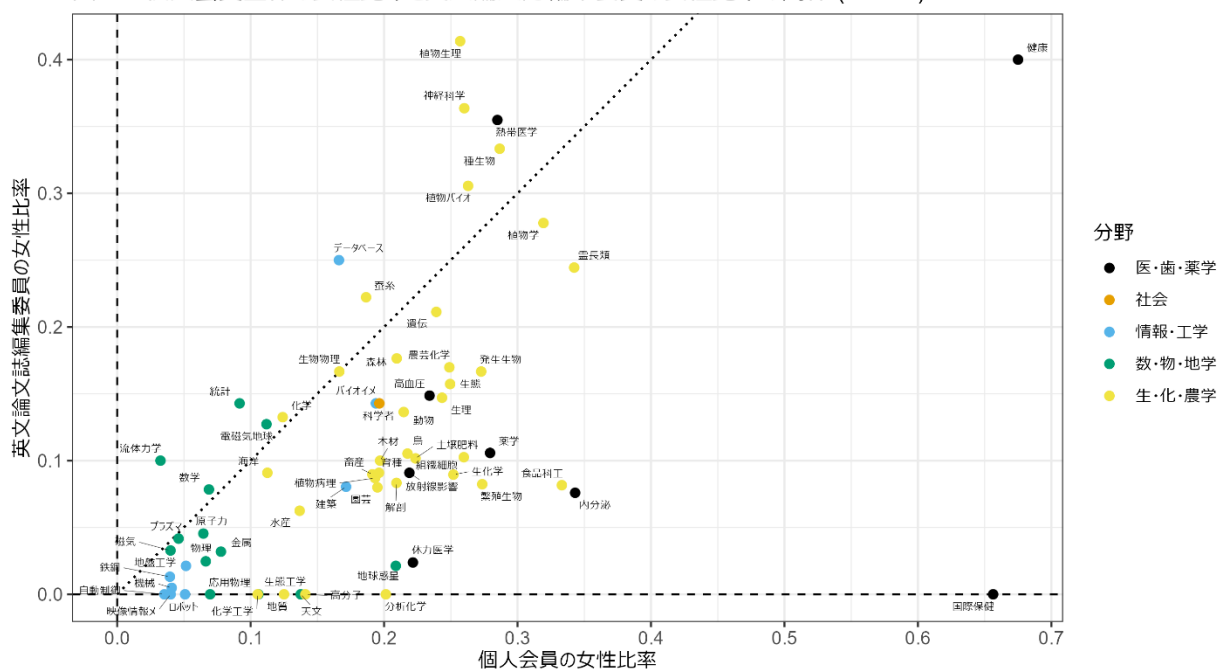


図7. 個人会員全体の女性比率と和文論文誌編集委員の女性比率の関係 (N = 55)

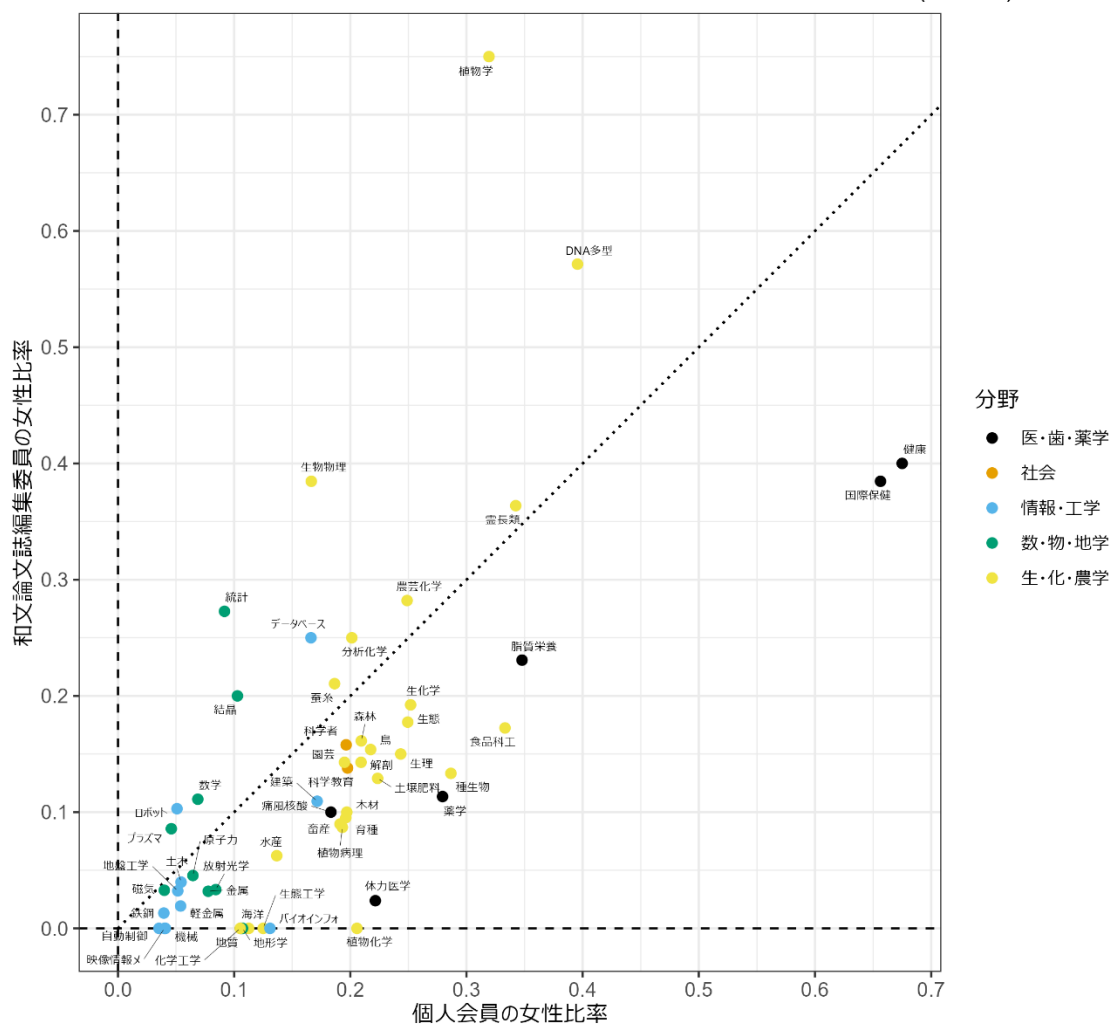


図8. 個人会員全体の女性比率と
男女共同参画委員の女性比率の関係 (N = 82)

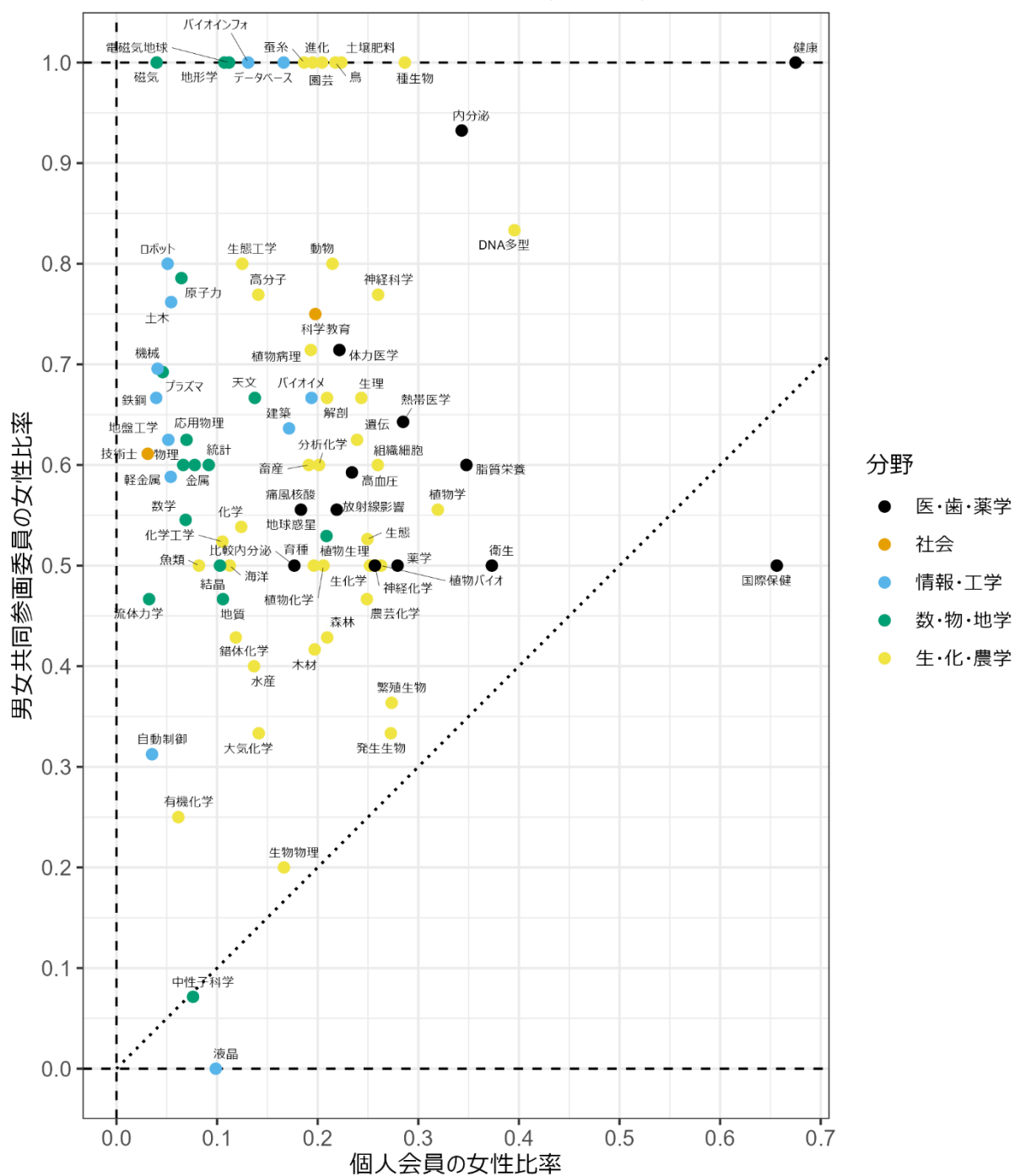
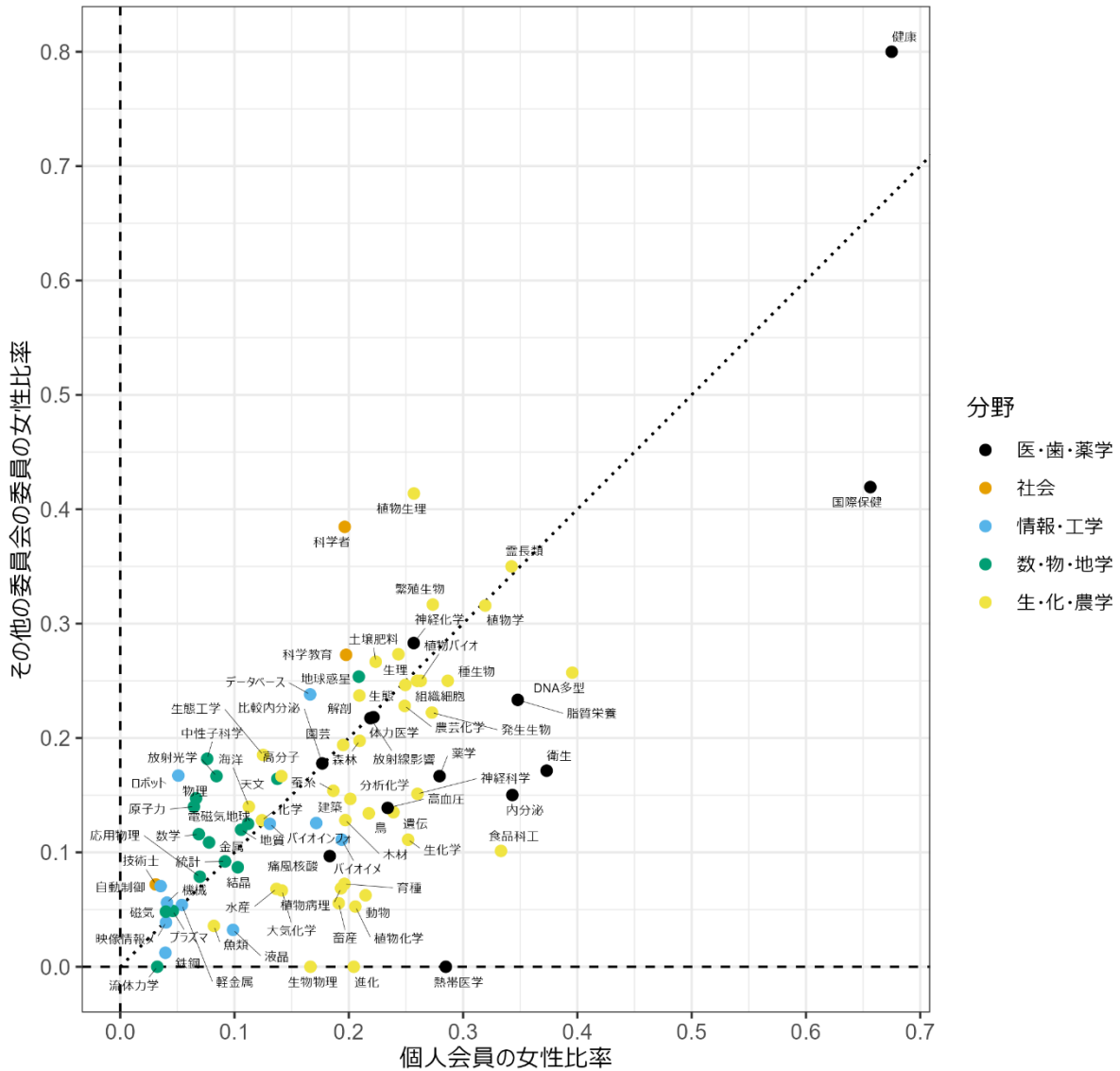


図9. 個人会員全体の女性比率と
その他の委員会の委員の女性比率の関係 (N = 81)



3. 個人会員の女性比率と大会シンポジウム関係者や受賞者の女性比率

個人会員の女性比率と、過去5年間に於ける大会・年会の学術シンポジウムのオーガナイザー(図10)および講演者(図11)の女性比率との関係を示す。いずれも全体としては正に相関していたが、医・歯・薬学と生・化・農学では、 $Y=X$ の斜線の下方に位置する学協会が多くなっていた。

次に、個人会員の女性比率と、過去5年間に於ける各賞の受賞者の女性比率の関係を示す(図12-14)。まず、若手研究者大正の章を除く学会賞受賞者では、学協会ごとのばらつきは非常に大きく明確な相関関係は認められず、斜線の上方に位置する学協会は非常に少なく、大きく男性に偏っているものが多かった。この傾向は若手研究者賞の受賞者になると大きく変わり、個人会員の女性比率との相関関係が明瞭になり、斜線に近づく学協会が大幅に増えていた(図13)。その他の賞の受賞者については、多くの学協会では $Y=X$ の斜線の近くに位置しており、また、医・歯・薬学分野では、女性比率が高くなっている(男性比率が個人会員比率に比べて低くなっている)学協会が多かった。

図 10. 個人会員全体の女性比率と
大会での学術シンポジウム（2018-22年度）のオーガナイザーの女性比率（N=58）

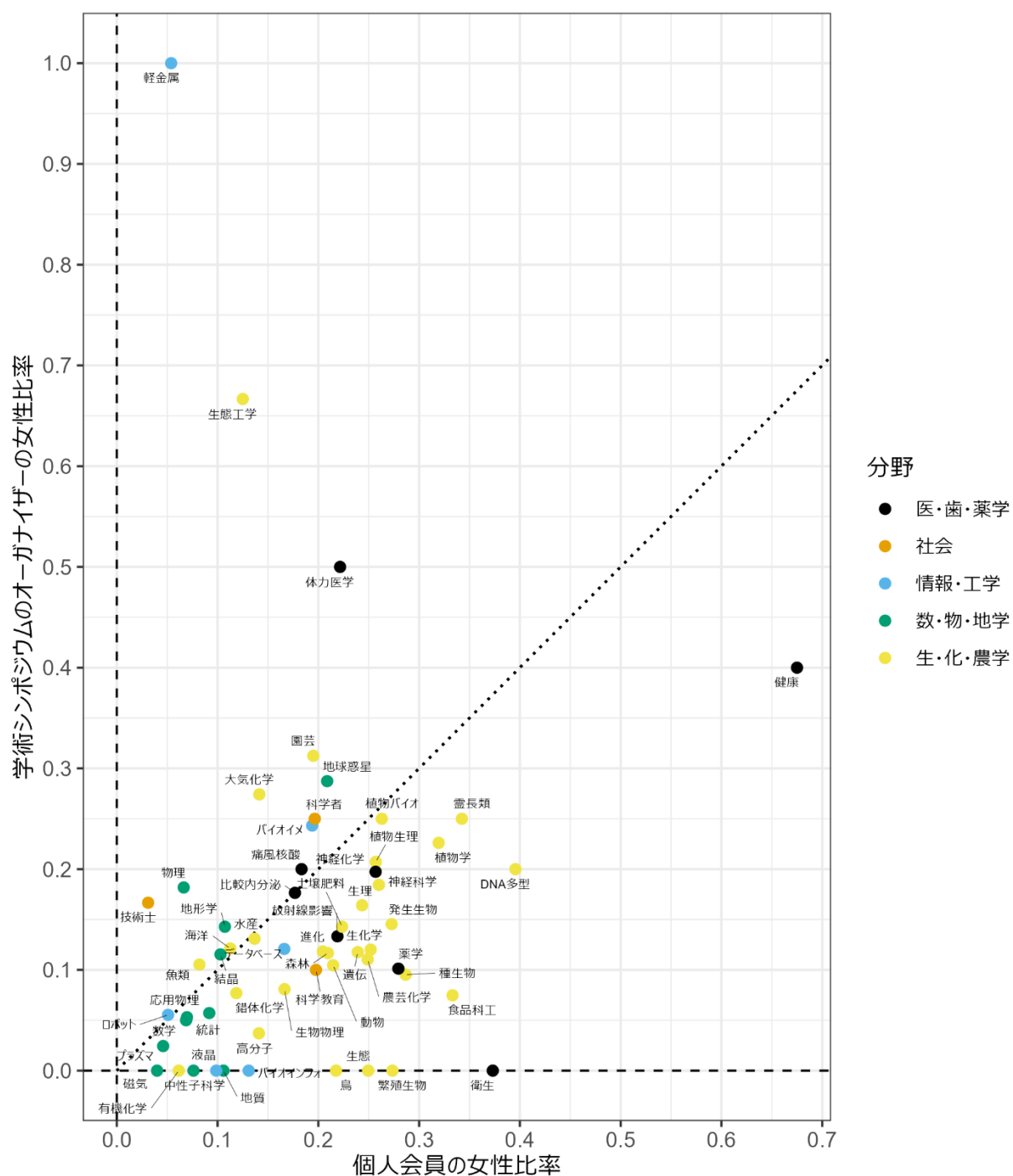


図 1 1. 個人会員全体の女性比率と
大会での学術シンポジウム（2018-22年度）の講演者の女性比率（N=61）

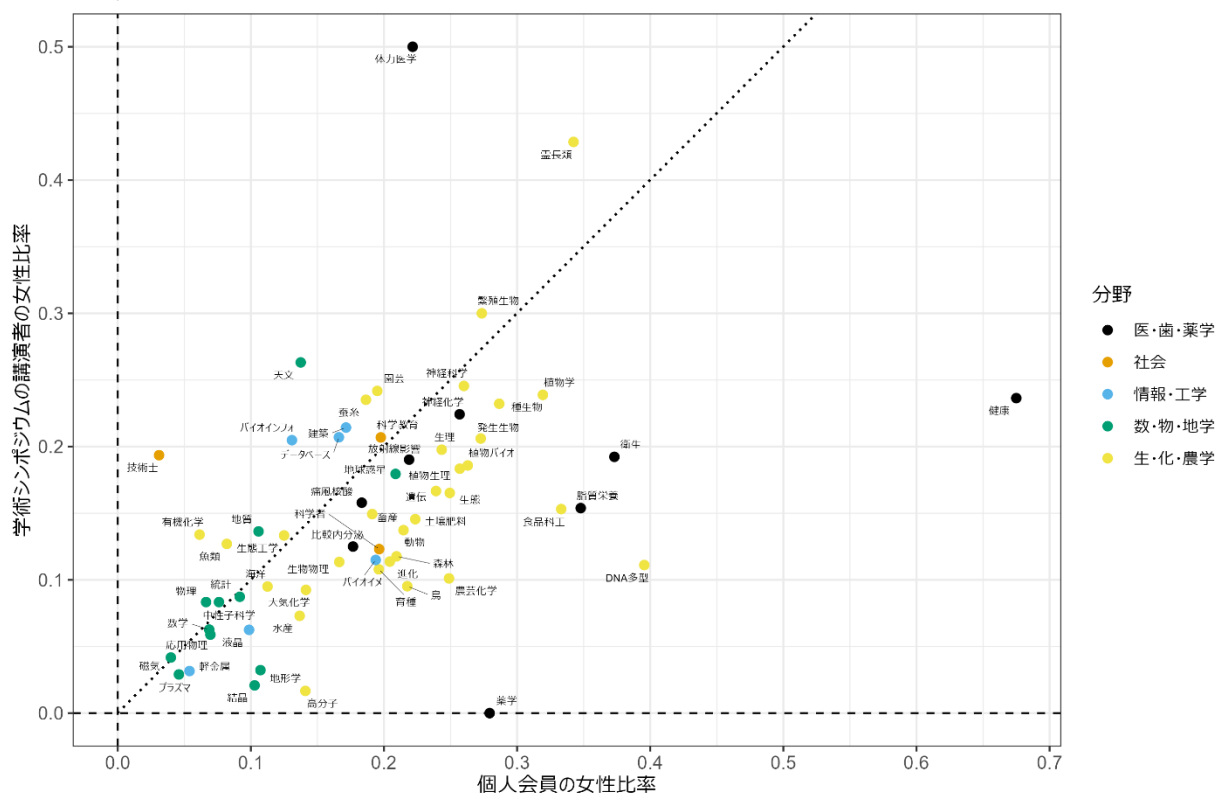


図 1 2. 個人会員全体の女性比率と学会賞受賞者（2018-22年度）の女性比率（N=71）
（若手研究者のみを対象とする奨励賞的位置づけのものを除く）

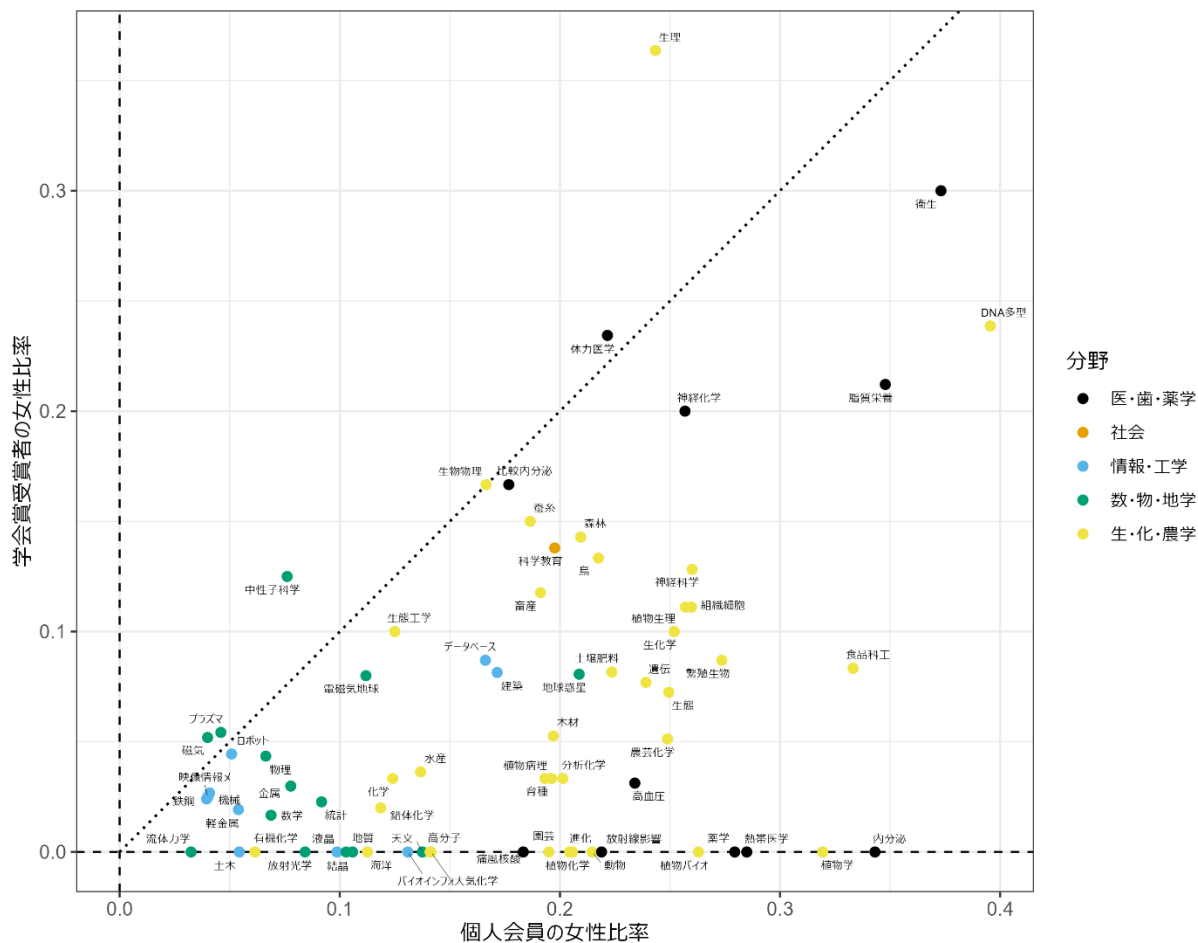


図13. 個人会員全体の女性比率と
若手研究者のみを対象とする賞（奨励賞など）の
受賞者（2018-22年度）の女性比率（N=78）

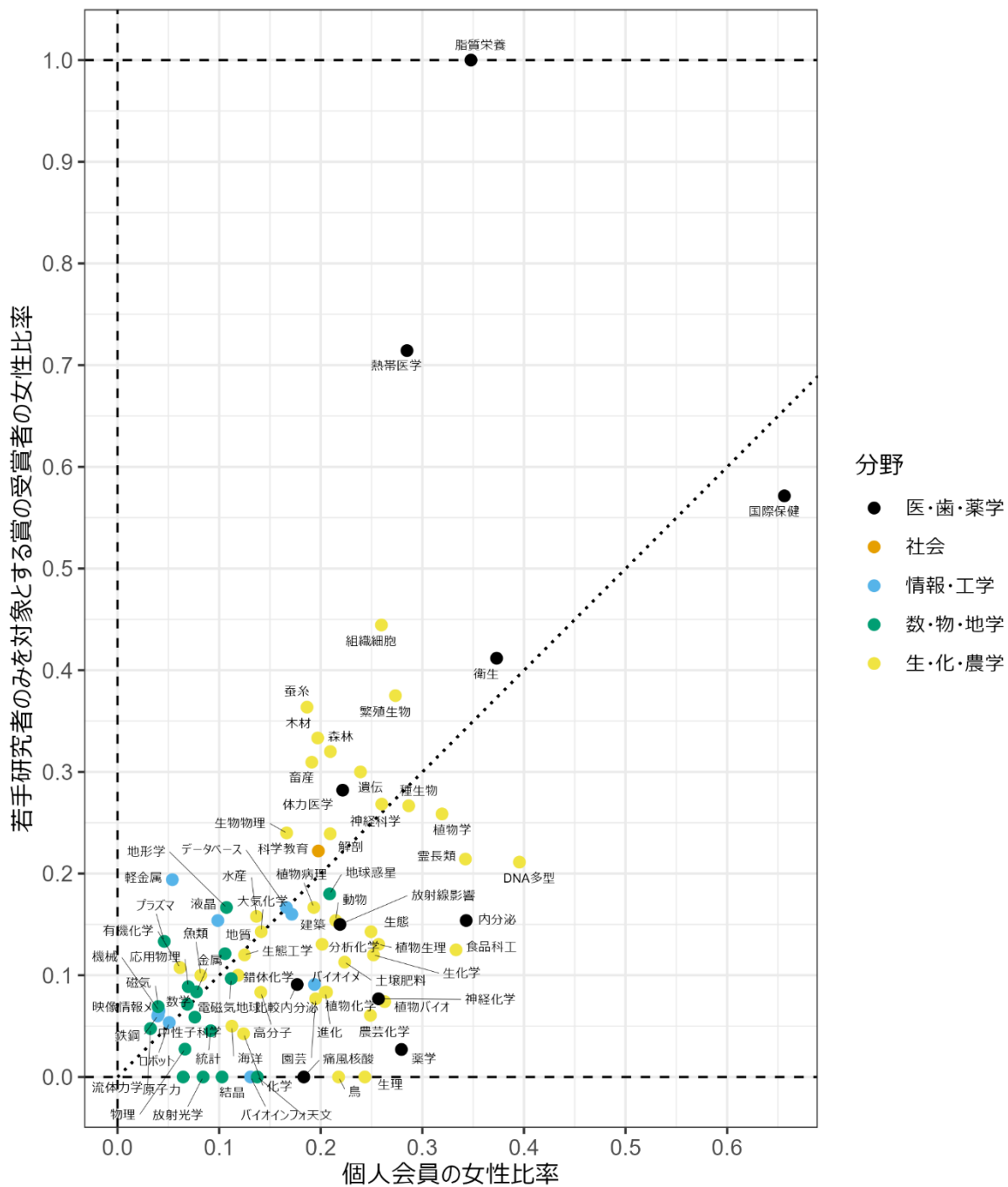


図14. 個人会員全体の女性比率と
その他の賞の受賞者（2018-22年度）の女性比率（N=63）

